

外国人墓地・シドモア家墓前に“里帰り桜”が植えられ、今年で33年！ シドモア桜の苗木を開港広場前に植樹しました

日米桜交流のきっかけをつくった米国人紀行家エリザ・R・シドモア。彼女が眠る外国人墓地の墓前に1991年、米国から里帰りした桜が植樹され、今年で33年になります。この記念の年に、「シドモア桜の会 横浜」よりシドモア桜の苗木が中区へ寄附されました。

3月21日、「シドモア桜の会 横浜」、中区長及び中土木事務所長が、その苗木を横浜の玄関口である大さん橋へ通じる、開港広場前に植樹しました。

横浜観光の中心地として親しまれており、今回植樹した苗木は早ければ3年後に花を咲かせます。その日まで大切に見守り、その後も末長く大事にしていきます。



左から梅本氏(シドモア桜の会横浜)、小林区長、
中山所長、石井氏(シドモア桜の会横浜)

※鉄入れの様子の写真データを希望される場合は、お問合せ先までご連絡ください。

<シドモア桜>とは

1884年前後に来日したエリザ・R・シドモアは、ヨーロッパや日本のほかアジア諸国を訪問し活躍したアメリカ人ジャーナリスト・紀行家です。日本滞在中にお花見風景や東京隅田川沿い向島の桜並木に魅了されたシドモアは、その様子を『日本・人力車旅情』で紹介しています。

桜の美しい風景を「母国アメリカワシントンに！」と熱望したシドモアは、親交の深かった当時の米国大統領夫人に桜の移植計画を提案。同意が得られたことをきっかけに、後に日米友好・親善のシンボルとなる桜の移植計画を始めます。その後、紆余曲折を経て、ついに1912年に日本から贈られた3000本の桜の苗木がワシントンに到着し、ポトマック河畔一帯に植えられました。

1991年にワシントンから日本に里帰りした桜が横浜山手外国人墓地のシドモア家墓前に植えられ、毎春満開の花で皆を楽しませています。

この「里帰り桜の樹」から穂木を採取し、接ぎ木によって作った苗を育てて、それを横浜周辺や全国各地に移植し、大きくなった樹を<シドモア桜>と呼ぶようになりました。

お問合せ先

(寄附・植樹に関すること)

中区中土木事務所副所長 仲田 朋生 Tel 045-641-7681

(「シドモア桜の会 横浜」に関すること)

シドモア桜の会 横浜 代表理事 梅本 千晶 e-mail sakura.scidmoreesy@gmail.com